

Question 09

腎臓

腎機能と
高血圧

尿の異常で受診。
血圧の薬を処方されたが…

61歳・男性。検診で尿たんぱく陽性と、クレアチニンが高めでした。心配なので内科を受診したら、血圧が高いということで、レニベース[®]を処方されました。尿の異常(腎臓)で受診したのに、血圧の薬をもらったのですが、これは一般的な治療法なのでしょうか。腎臓の治療はしなくていいのでしょうか。
(茨城県 I・F)

Answer

血圧管理が腎機能の温存につながる。
治療を継続してほしい

これはとても大切な相談です。ご相談の方は尿にたんぱくが出ており、血清クレアチニンが正常値を超えて上昇していることから、すでに腎臓に障害があると思われるます。

クレアチニンは腎機能を示す代表的な血液検査です。クレアチニンが上昇しているということは腎機能が障害されていることを示唆します。数値が高いほど腎機能障害は高度と診断されます。例えば、クレアチニン値が8mg/dlを超えると高度腎不全と診断され、透析治療が必要になります。

また、尿にたんぱくが出ているとのことですが、一般的に健康診断などで尿たんぱくを測定する際

には、テープ法という簡便な方法で測定します。健康な人では陰性です。

排泄されるたんぱく量が多いほど、腎機能障害は高度であると考
えられます。

糸球体にかかる血圧を
下げることが大切

腎臓には、尿を作り出す最小単位である「腎小体(ネフロン)」と呼ばれる微小構造があります。腎小体は、腎臓に流入する細動脈が複雑に分岐した「糸球体」(血管構造)と、糸球体でできた尿を運ぶ「尿管」からなります。

一つの腎臓にはこのような腎小体がおおよそ100万個もあるとい

われています。腎臓が血管に富んだ臓器であるといわれるゆえんです。

この糸球体細動脈の壁には特殊な窓があり、必要に応じて水分やたんぱく質、血中老廃物が入りできる、透過性に富んだ構造になっています。血液はこの糸球体に運ばれて、余分な水分や老廃物がこし出されます。そして尿管を経て体外に排泄されるのが尿です。

そのため、尿にたんぱくが出るということは、この糸球体の微小構造が壊れているということを示しています。

一方、糸球体にかかる血圧は、濾過を起こす原動力になると同時に糸球体への負担にもなります。

腎障害の原因は、腎炎などの腎臓そのものの疾患のほかに、高血圧や糖尿病などの生活習慣病も考

えられます。

いずれにせよ糸球体血圧を軽減することは、今後腎臓の機能を温存する上で極めて重要です。

腎臓と血圧の関係を理解し
今からしっかりと管理を

ご相談の方の場合、レニベース[®]と呼ばれる降圧薬が処方されたことですが、レニベース[®]は降圧薬の中でもレニンアンジオテンシン系阻害薬と呼ばれる薬剤の代表です。この系統の薬剤は、上記の糸球体高血圧を改善する有用な薬剤です。

尿にたんぱくが出てるとはいえ、血中クレアチニンの上昇も軽度な、今の時期の管理が大切です。

現在の薬の服用を中心に、主治医とよく相談され、治療を継続されることをおすすめします。



私が
回答します

医療法人社団 薫風会
いまい内科クリニック 院長

今井信行
いまい のぶゆき

〒665-0021
兵庫県宝塚市中州2-1-28
TEL 0797-76-5177
http://www.kunpfukai.com/imai_naika/